

KSKP THRESHOLD

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.21

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュヨルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC



今年のテーマは「地域とつながる」再始動！

皆様のご支援があり、コロナ禍をいったん乗り切ったようにも思います。が、この原稿を書いている今も、感染者が増えていることと、これから Go to キャンペーンとやらで、観光地神戸にも人が押し寄せること、それに伴う第2波を考えると、油断はできません。が、疎開状態から自分たちの居場所に戻ってきて、目まぐるしい人生初の経験を皆で体験しました。何事もなく収束し、回復して数年したときには、この経験が思い出になれば幸いなのですが。

本年度、神戸ダルクでは様々な取り組みが予定されていました。そのすべての取り組みの中心にあるのが「地域とつながる」というテーマです。開設4年が過ぎ、4年前には、依存症回復支援の取り組みに大きく遅れを取っていた神戸。そんな中で、出会ってきた様々な支援者や関係機関の方々に支えられて今日まで来ました。これまでは、そのツナガリを作っていくことで精一杯でしたが、私たち神戸ダルクヴィレッジから、社会に旅立っていく仲間や、計画を立てて歩き始める仲間が増えてきました。ダルクのプログラムも、そんな仲間たちの想いに影響されて変化していています。社会に戻っていくということ、それは今の時点で「孤独へ向かっていく試練」と言っても過言ではありません。ダルクで薬物も止まった、仲間もできた、希望もできた。だけど、ここから社会に戻っていくのに誰が支えてくれるでしょうか？支援者の人でしょうか？私たちは支援者の人々のところに戻っていくのではありません。地域に戻って行きます。私たちは地域が怖いのです。その理由は「私たちは薬物依存症という看板を背負っているから」

コロナの問題がなければ、地域とつながるために、太鼓の演奏、タコス販売、野菜の販売、などなど、地域とのコミュニケーションを計画し、支援者さんからつながる地域の方々や、近隣の方々と顔を合わせる取り組みを、地域の方も含めて期待十分で動いていたでしょう。でももう一度神戸ダルクは動き始めます。私たちはいつだって何歩も遅れてスタートしてきたじゃないですか。今はそれに支えてくれる人たちの笑顔が浮かびます。「つながり」この言葉の下に、みなさま気軽に声をかけてください。よろしくお願いいたします。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田晴規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

共同生活援助(グループホーム)リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

回復と子育て スタッフ 梅田容子

神戸ダルクの設立から早4年、同じ様に息子たちも4歳になり、この6月には待望の女の子も無事出産することが出来ました。4年前、夫婦それぞれが生まれ育った地元を離れ、まったく何もない所からのスタートでした。それは育児に関しても然り、まして双子を育てるといのは全く未知の世界で、何をどのようにしていけばいいのか、自分が今何に困っているのか、それすらわからないままに子育てが始まったことを覚えています。それは依存症からの回復においても同じで、生きることがどうにもならなくなった10年前、何をどうすれば薬物がやめられるのか、薬物抜きでどうやってこれからの人生を歩んでいけばいいのか、自助グループにたどり着いてもなお模索していたように思います。当時の記憶を振り返ると、私の心配をよそに、双子の会(ひょうご多胎ネット)の先輩ママさんも、NAの先ゆく仲間たちも、みんな笑って私の話を聞いていました。そしてあの時貰った言葉、「みんな同じ経験してきてるから大丈夫」とか「何とかなるよ」といった言葉の通り、今の私は色んなことが、「何とか」「大丈夫」になっているのです。薬物を使わなくても毎日の生活は成り立っているし、息子たちはすくすく元気に育っています。それどころか人生は豊かで、日々幸せだと感じることの多いこと！どちらもあの頃には想像出来なかったことでした。

とは言え、やはりまだまだ子育てには行き詰ることもしばしばあります。子どもたちは良くも悪くも知恵が回るようになり、成長と取れる喜ばしい面もある一方で、手を焼くことにうんざりする一日もあります。無力とは、NAやダルクでよく使われる言葉ですが、子育てほどそれを目の当たりにする経験は他にないのではないかと感じています。素面で子育てをしていると、薬物が止まり始めた頃のように、辛くてミーティングで泣くことが増えました。それでも昔と違うのは、それが「嫌な」感情では無くなったことです。自分にとって負の感情も、まるまる引き受けてこそと思えるようになると、その出来事が過ぎ去った時にそれこそが人生の醍醐味だと感じられるようになります。

先日、産後のホルモンバランスや梅雨時期の気圧の変動も影響して、息子たちに対してイライラすることが増え、自分の感情のままに怒鳴ってしまい、悪い言葉を投げつけました。その後も感情がコントロールできず、寝る間際までぶつぶつ言う始末。我に返り、後悔して謝り、本当はそんな風に言いたくなかったこと、ママは誰よりも君たちを愛しているということ、それでも時々しんどくなってそんな風になってしまうということ、息子たちに話すと「ママごめんね。ママ大好き」という息子の言葉に涙があふれ、3人で泣きながらごめんねを繰り返しました。翌日、自責の念と子育てのしんどさからオンラインミーティングで泣いて話をしたところ、ある仲間は「自分は子どもがいないけれど、確実に言えるのは、子育てしてきた仲間たちの分かち合いのおかげで自分と母親との関係が修復できていがあることだ。」と話してくれ、またある仲間は「(幼児期の当初を振り返って)親から、手のかかる子どもだったと言われ傷ついたこともあったし、実際親の厳しいしつけや態度が受け入れられなかったけれど、あの頃はお母さんも必死だったんだとか、どんな気持ちで育ててきてくれたのかってNAのお母さんたちのおかげでわかるようになった」と分かち合ってくれました。

回復の道のりの中で、痛みを伴うような狭く苦しいところを通らされることもあるのですが、一見行き止まりにも思える道の向こうにはまた新たな道が用意されていて、その道へそっと橋渡ししてくれるのが同じ志を持つ仲間です。そしてそれらはいつも神の御手の中で起こります。だから私は恐れなくてその道を行くことが出来るのです。

二人の仲間は子育て仲間たちから多くのものを受け取った、と話してくれましたが、その日一番たくさん受け取ったのは間違いなく私でした。これから3人の子どもたちを育てていく中で、今以上に大変な時がやってくると思いますが、この日のミーティングを忘れることはないでしょう。両手いっぱいでもなおあまりうる深い愛と癒しをありがとう。

そして私を、こんなに可愛い3人の子どもたちのママにしてくれた夫に心から感謝しています。

「主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません。たとい死の陰の谷を歩くことがあっても私はわづわいを恐れませぬ。あなたが私とともにおられますから」
詩篇23章

※ 一部ミーティングの中で話されたことが出てきていますが、仲間の了承を得て書かせて頂いています。



私の体験談

三度目の正直 アヤト

依存症のアヤトです。僕が最初に薬物を使用したのは16歳の時でした。当時、脱法ハーブが流行っていて、周りの人たちが当然のように吸っていたので、抵抗なく一緒に吸いました。この時に、面白い幻覚を見たのを今でも覚えています。この経験から色々な薬物に興味を持ったため、手に入る物は何でもやりました。大学生になってからは大麻が主流になり、講義も出ずにヒップホップ同好会の先輩と大麻を吸い、音楽を聞いて過ごしていました。

その為、1年の間にほとんどの単位も取れず、大学へと通う本当の意味も失っていたので、中退しました。それから仕事をしていましたが、悪い人が良い薬物を持っている事に気付き、薬物が中心の人間関係を自発的に築いていました。ここからは、コカイン、シャブ、LSD、MDMA等、あらゆる物をチャンポンしていました。薬物由来の人間関係だったため、それまで友達だった人達との人間関係は崩れ、新しく付き合いだした人達とも、うまく付き合えず、気付いたら僕を相手にしてくれる人は家族くらいになっていました。その為、あまり薬物が手に入らず、処方薬依存へととなりました。ODをして、嫌な事を忘れていましたが、何もかもダメになり、万引きをした物を現金に変えて生活していました。時にはクレジットカードをトバして現金を作ったり、高級ブランド店で物を盗んだりしました。もちろん逮捕され、留置所でダルクへ入所する事に決めました。母親が家族会へとつながって



おり、それまでもダルクと言われていましたが、いつも断っていました。もう少し早く入所していたら大崩れする事もなかったかもと、少し後悔しています。1回目の入寮時は半年程で退寮し、働き始めました。この時の事を今考えると、料理ばかり作っていて、あまり自分の問題に目を向けていなかったと思います。それから薬は止まらず、2回目の入寮をしましたが、やはりダメでした。3ヶ月程で退寮したのですが、初めから出る事ばかり考えていました。僕は通帳を売って口座凍結されていたので、家や携帯を作ることもできず、満足な生活を送ることが出来ませんでした。どうしても薬物が近くにある職場で働くことしか出来ず、我慢できずに薬物を使って生活していました。今回の入寮では薬を止めることは勿論ですが、生き方や性格も変えようと強く思っています。今まで支えてくれた家族や付き合いしていた彼女に対し、かなりひどい事をした

と反省していますし、他人よりも自分の事を中心に考える自分に嫌気がさしました。神戸ダルクへの入寮は初めてですが、何度も僕を受け入れてくれるダルクの方達に感謝し、自分と向き合い、生き方を変えることで、今までとは違った人生が送れるよう努力してここでは生活していきたいと思っています。



何かを...もともと ナオ

初めまして、ギャンブル依存症のナオです。1990年生まれの30歳です。地元の高校を卒業後、他県の国立大学へ進学し、独り暮らしを始めました。専攻は建設学で、父親の影響でした。大学卒業後は大手建設会社に入社し、多忙な日々を過ごしていました。25歳の時に会社の寮で倒れ、うつ病と診断されました。うつ状態がひどいと、1ヶ月近く家から出る事が出来ませんでした。ある日、家でテレビを観ているとポートルースのCMがやっていて、インターネット投票なら家でも出来ると思ったのが、ギャンブルとの出会いでした。徐々に買い方を覚え、気付いた時には、ギャンブルのとりこになり、会社は1年半病欠し、満期による自己都合で26歳で辞めました。その後、実家に戻りましたが、8年間1人暮らしをしていた事もあり、居心地が悪く、その頃覚え始めていたスロットにハマリ、パチンコ店に入りびたる様になりました。そして、家には母親が寝静まる頃に帰り、静かに鍵を開け、寝るだけでした。



当初は自分の貯金の範囲内でギャンブルをしていましたが、気づくと無くなり、借金や家庭内窃盗をする様になり、その罪悪感から開放されたいという考えから自殺したいと思うようになりました。苦しくて、どうにもならなくなった時、頭の中で、「この場から逃げ出しそう」「違う所なら上手くやれる」...そういった言葉がよぎり、練炭を買い、実家の茨城から青森まで、1日中車で走り続けました。しかし、その結果、保護され、1回目の入院となりました。退院後は少しの間、やらない期間がありましたが、再びギャンブルに手に出し、ほんの数日で借金を作り始め、逃げる様に1ヶ月以

上車駐泊をし、2度目の入院をしました。その時診断されたのが双極性障害と病的賭博でした。入院期間中に母がギャンブル依存症の家族会に行っている事を知り、紹介されたのがグラフながさき(長崎ダルクのギャンブル依存回復施設)でした。主治医とケースワーカー、そして家族と話し合い、2018年4月(28歳)に長崎へ行きました。やる気満々で、「努力すれば回復する」「1年で社会復帰しよう」等と考え、何事にも懸命に取り組みましたが、6ヶ月を過ぎた時、気付いたらパチンコをしてました。なぜ、スリッパ(再使用)をしてしまったのか分からず、その結果10月に退所しました。

グラフを出て、長崎の夜の街で働く事になりましたが、ギャンブルが止まらず、半年で一方的にお店を辞め、引きこもり、「自分が死ねないのなら、世界が減ればいい」等と考えていました。2019年3月お金が尽き、食べ物も無くなり、入院しようと



病院に行くと偶然グラフの施設長カンさんと出会い、再度グラフに入所しました。2度目の入所では、1年前に同じくらいのクリーン(やらない期間)だった仲間や後から入所した仲間が先に進んでおり、心の中で置いていかれたと思い、3ヶ月で退所しました。

2019年7月に東京に行き、親友の実家や兄のアパートに2週間ほど居候して、社宅のある会社に精神障がい者として入社しました。条件や待遇が良く、介護の資格を取らせてもら



い、2020 年 4 月からは社会福祉士の資格を取る為に大学に行く準備をしていましたが、また病気が再発しました。3 月 18 日に社宅を飛び出し、何かを求めギャンブルをしていましたが、東京では見つける事が出来ず、23 日に大阪へと来ました。しかし、26 日にはお金が尽き、雨の中何かを求めていました。それは居場所でした。そして、大阪ダルクを訪ねました。着いた時にはディケアが閉まっていたので、近くのコンビニの前で、土砂降りの中一晩過ごし、翌 27 日に相談しに行きましたが、入所には至りませんでした。

次のダルクを求め、雨の中土地勘の無い大阪を歩き続け、3 月 29 日に神戸に着きました。その日はダルクは休みで食事や睡眠が取れていなかったもので、神戸ダルクが最後の砦でした。3 月 30 日公園で目覚め、9 時半に神



戸ダルクに助けを求めると、いかにも薬中の方(デヴィンさん)が対応して下さい、「16 時に再度来てください」という言葉と共に現金 1500 円を受け取り、「これでご飯を食べてください」と言って下さいました。早速、コンビニでカレーライスとコーヒー牛乳を流し込み、15 時半に再度訪れ、その日に入所する事が出来ました。

入所後は、コロナ禍の影響もあり、2 ヶ月間鳥取のログハウスで過ごしました。大自然の中での生活は仲間

との距離感が近く、大変な時が多かったですが、学びも多く、自分の思考や行動を理解するのにとても良い環境でした。これからも、仲間と共に、1 日 1 日を大切に過ごしたいと思います

ダルクスタッフになって スタッフ タケ

どうも薬物依存症のタケです。僕は神戸ダルクにつながって 3 年 5 か月。畑の作業中に急に代表から電話があって、「スタッフとしてトライしてみましよう」と言われ、えっ？僕が！？電話で僕が何を言ったらいいのかわからなくて、「ハイハイ」と答えたのが始まりでした。

パソコンもできなくて何をしたらいいのかわからず、とりあえず仲間の世話をしようと…

でも、僕は人の上に立つことが苦手で、指示を出すのも苦手です。

まあ、でも僕が利用者の時、スタッフが面倒を見てくれたし、今度は逆に仲間の面倒を見なあと考えてました。そんな感じですがなんとか今日一日過ごすことの繰り返しです。

もうすぐ、一人暮らしをするんですが、朝起きれるのかと心配でしかたがないです。

将来的には、一人前になって父母の暮らしている家で一緒に暮らせたらいいなと思っています。父母は先に死にます。僕が人生で失敗して、父母の面倒を見ず、刑務所ばかり行っていて情けないです。

今は何年かかってもいいから一人前になるために仕事に励みたいです。

話は変わりますが、僕は去年の今頃は、北九州ダルクにいました。あれから 1 年。月日が経つのが早いと思いました。北九州ダルクはいろいろとスタッフさん、代表さんとかに、お世話になって。温かみがあって親切に出迎えてくれました。今コロナが蔓延して、北九州ダルクや、父母、姉が、心配で今は連絡が取れなくて、神戸ダルクも自由に身動きが取れない状況です。

コロナにおびえては何も始まりませんが、何よりも自分の体の方が大事です。

ああ神様いつコロナが終わるのですか？早く終息させてください。

今アメリカでワクチン開発しているそうですが、一日でも早く多くの人の命が助けられるようにと願っています。今日一日、何もなかったことに、神様に感謝。



「夏野菜の楽しみ」

ニッシン

ダルクで2回目の夏をむかえた依存症のにつしんです。代表のウメさんから夏野菜に関する本を借り、夏野菜の準備は3月から始まりました。個人的にカボチャやピーマン、なすび、ゴーヤと夏野菜が好きだったので意気込み十分で取り掛かりました。しかし、収穫後の食すことを楽しみにしている僕にとって想いと裏腹に実際に行動を取り掛かると苦難の連続でした。ビニールハウスの育苗では、苗に毛虫が葉を付き食べられ、仲間と一緒に割り箸でとることをイ



タチごっこでやっていました。また温度が高くなり、苗も萎れたり、春野菜の育苗とは違い、なかなか思い通りにはいきませんでした。畑での植付作業では、去年よりも畑が倍以上大きくなったこともあり、作業が大変でした。特にトマトの添木では YouTube の動画を参考に、支柱とビニール紐を使って仲間が一生懸命に作業をしてもらいました。しかし暑さで思うように作業も進まず、梅雨入りもしてますます滞るようになりました。そんななか、野菜も実り、収穫できるようになりました。まずはジャガイモ。十分に乾かして保存できるように処理しました。トマトも青いものを収穫して熟すまでヘタを下にし、赤くなるのを待ちます。昼食・夕食でも僕たちが作った野菜を使った料理が食卓にでてくるようになりました。メインのおかずや副菜、サラダや漬物と、献品でいただいたご飯がつつい進んでしまいます。普段野菜を食べない仲間もバクバク食べていました。作った野菜がどんな形や味で出てくるのかも楽しみになっています。調理する仲間によって同じ野菜でも様々な調理法で美味しい料理をいただいています。育てた野菜を余す事なく使う為、少しづつですが、乾燥させたり、冷凍したりと育てた野菜を長期的に保存する方法も試しています。僕自身、今まで深く考えたことはありませんでしたが「いただいている」という感覚を感じています。しかし、予想以上の雨が降ったと思ったら温度が高い日が続いたり、せっかく実っていた野菜の多くが残念ながら傷んでしまいました。まだまだこれからが夏本番ですが、その現実と向き合わなければなりません。残っている夏野菜を大切に育て、秋野菜を楽しくするために準備をして前に進んで仲間と取り組みたいと思います。



活動報告

5 月

NA APF ワークショップ参加
グループホーム「リカバリーホーム」開所

6 月

伯耆大山登山
加古川学園講演
札幌刑務支所視察
神戸ダルク家族会再始動

7 月

千葉なのはな家族会講演
京都ダルク合同ソフトボール
ファイザー中間報告会
松山刑務所教育
パチンコパチスロ社会貢献団体機構授与式
ソーシャルキッチンタコス販売

8 月

アウトリーチミニコンベンション参加 NA
こうべ家族教室スタート
無料出張家族相談尼崎
無料出張家族相談姫路



近況報告・活動予定

別の場所でも書きましたが、神戸ダルクを移転することになりそうです。今の場所は駅からも近く、狭苦しいですが愛着のある場所でもありましたが、コロナの様々な影響も含めて新しい場所に移る計画をしています。その一番の理由は、人が増えてきて、日中過ごすスペースが確保できない状況です。コロナが大きく流れを変えました。ですが、この経験は悪いことばかりでもないように思います。私が神戸での開設に踏み切ったのも、この街が復興(回復)の街だからです。何度でもやり直す場所として、独り立ちする仲間などの計画に寄り添い、準備する日々を過ごしています。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッショルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、新しく第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。
兵庫県の実業依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1日 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。用務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。
ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741
e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談
相談の内容に関しての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

新田 正彦様 佐藤 喜三子様 ナカシマノブヤ様 浜崎 進様 カトリック神戸協議会 松永 敦様 西園 恵梨香様
坪川かづ子様 伊佐得人様 幸地クリニック 幸地 喜朗様 大野 千春様 植木 芳光様 結城 嘉彦様 小林 るみ子様
青山 晴様 千葉菜の花家族会 黒川 奈菜子様 間 明子様 中田 智恵海様 八島 由里子様 板野 剛崇様

ご献品

山崎 行仁様 山崎 圭様 高田 安世様 間 明子様 播磨社会復帰促進センター様 明石市社会福祉協議会様
株式会社ラッシュジャパン様 竹川 智恵子様 遠藤 恭子様

(令和 2 年 5 月 26 日～令和 2 年 7 月 24 日到着分・順不同 ※購読料・支援会員の方を含む)

寄付や献品のお願い

お米などのご支援ありがとうございます。コロナ禍にて非常に苦しい中でたくさんの方々が寄付や献品を送っていただきましたことに、心より感謝いたします。まだまだ予断は全く許さず、少し行動範囲も広がったものの、自粛生活は続いています。

この3ヶ月での相談なども非常に多く、ダルクのメンバーもコロナ前の倍近く増えました。

そのことから、立ち退きを迫られている商店街のキッチンのごともあり、今の場所より、広くて安い場所に引っ越す予定で考えています。場所は長田区になりそうです。

そのようなことも踏まえ、ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブ・自転車などもございましたら是非譲ってください。たくさんありましたら、車で取りに行くこともできます。

回復の中で、普通の家庭の様に安心して家族でご飯が食べられる様な環境はもっとも回復支援に役に立ちます。ご協力をよろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

いつもと違う夏。いつもと違う日常。

コロナウィルスでの一番の影響は「孤立」だったように思います。依存症は「孤立」の病です。それをさらに目の当たりにしました。ですが、全く身動きが取れなかった頃、ちょうど20号のニュースレターを読んでいただいた多くの方々からのご支援がありました。たくさんのお米や物資が届きました。本当に困っている時だったので、物資も確かにうれしかったですが、何よりもその気持ちに対してじんわりと感謝をかみしめていました。ご飯が美味しい今年の夏。感謝。

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.21

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部100円 年会費2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階